

資料館だより

第 17 号

平成25年4月



《巻頭写真》

「歴民来館者数 25 万人を突破しました！」

平成25年2月26日(火)、資料館は、昭和60年12月1日の開館から数えて来館者数25万人を突破しました。記念すべき25万人目は昭島市からお越しの篠恵美子さん。賞状と記念品を贈呈いたしました。ちょうど「桃の節句展」開催期間中だったため、ひな飾りの前でお写真をパチリ。古民家園も1か月前の1月25日(金)に、平成5年に開園してから累計20万人を突破し、おめでた続きとなりました。ちなみに古民家園の20万人目は、社会科見学にきていた柏小学校3年生の皆さんでした。ほぼ同時期に来た節目を祝いつつも、これから古民家園・歴史民俗資料館ともに次の節目である25・30万人突破に向けてひた走りますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

目次

目次・巻頭写真	1
新しい文化財が指定されました	2
平成24年度	
資料館・古民家園の催し	4
利用状況・新刊紹介	6
寄贈資料紹介	7

新しい文化財が指定されました

平成 25 年 3 月 25 日、次の 5 件の文化財が、立川市教育委員会によって、新たに立川市指定文化財に指定されました。過去に指定された文化財に加え、新たに指定された文化財の保護・活用を図るとともに、今後も貴重な文化財の確認、調査を行い、保護を図ってまいりたいと考えております。

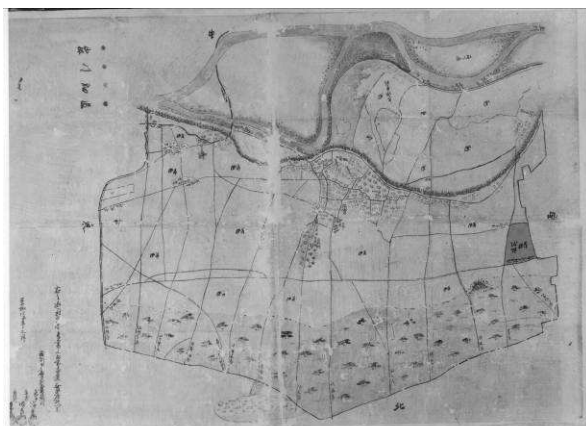
1.砂川村野取反別帳 附砂川村絵図

市指定有形文化財・点数（野帳^{やちよう}5点、絵図 11 点）。明治時代。明治 6 年の地租改正令^{ちそかいせいれい}に伴って整備された野帳と絵図です。野帳は全部で 6 冊ありましたが、残念ながら第 5 冊目が欠損しています。野帳は地租改正のために整備した土地台帳で、番地毎に所有者、面積、用途が記されています。絵図とあわせると、当時の砂川村の土地状況がよくわかる資料です。

2.柴崎村絵図

市指定有形文化財・点数・1 点。江戸時代。大きさ（約 65 cm×約 95 cm）。享和四年（1804）に彩色で描かれた柴崎村の絵図です。当時の柴崎村名主^{なぬし}、年寄^{としより}、百姓代^{ひゃくしょうだい}の署名、捺印があり、幕府へ提出した絵図の控

えであると考えられます。多摩川が二筋に分かれ、大きく北方へ蛇行していたようすが見てとれます。このほかにも、道路の名称、集落の分布、社寺の場所など、当時の柴崎村のようすがたいへんよくわかります。



柴崎村絵図（南を上にして描かれています。）

3.砂川村絵図

市指定有形文化財・点数・2 点（①武蔵国砂川村^{あらえ}鹿絵図面、②武蔵国多摩郡砂川村之図）。明治時代。2 点の絵図は、ともに明治時代初期の彩色の絵図で、砂川の旧家から寄贈されました。保存状態がとてもよく、色がきれいに残っています。

①武蔵国砂川村鹿絵図面は、大きさは約 94 cm×約 205 cmです。当時の水田造成計画図として、明治 4 年に作製されました。現在砂川地域に水田は残されていませんが、地元の人のお話によれば、この絵図に計画

された「田用水」と呼ばれる水路跡が各所に残されているそうです。また、道路の名称も詳しく記載されており、当時の交通状況もよくわかる資料です。

②武蔵国多摩郡砂川村之図は、大きさは約 39 cm×約 54 cmです。①の絵図より少し新しく、明治 9 年後に作製されたものと考えられます。道路の名前にくわえて、砂川村の古い小字が詳しく記載されていて、今ではたいへん珍しい絵図となっています。



砂川村之図

4. 向郷遺跡環状墓群出土の遺物

市指定有形文化財・点数(土器 15 点、玉類 2 点)。縄文時代中期。向郷遺跡は錦町 4 丁目から羽衣町 3 丁目に広がる旧石器時代～縄文時代を中心とした遺跡で、縄文時代中期の拠点集落として知られています。今回指定された遺物は、昭和 63 年から平成 2 年にかけて実施された第 15 次調査において、環状墓群から出土したものです。土器は、甕被葬

(かめかぶりそう：死者の頭部に土器を被せた埋葬方法)によるものと推定され、高さ約 68 cmの市内でも最大級の曾利式土器も含まれています。合わせて指定された、琥珀製や滑石製の垂飾品も縄文人の精神生活を知るうえで貴重な資料です。

5. 須崎家内蔵

市指定有形民俗文化財・1 棟。明治時代～昭和時代。大きさ 3 間×2.5 間。和釘が使われていることから、建築年代は明治時代と推定されます。砂川で 13 代続く旧家・須崎家にあった土蔵で、主屋から出入りできる内蔵形式です。土蔵としてはたいへん珍しい 3 階建てのものです。内装にはケヤキ材がふんだんに使われ、箱階段などの調度品も残されています。現在、内蔵は解体され、部材の状態で保管されています。復元にむけて調整をすすめています。

「旧梅田診療所」の解体

高松町 3 丁目の国登録有形文化財「旧梅田診療所」が平成 24 年 12 月に解体されました。昭和初期に建築された洋館で、地元でも親しまれていましたが、事情により保存が困難となり、やむを得ず解体されることになりました。建具などの部材の一部は、解体時に歴史民俗資料館で保存されています。

平成24年度 資料館の催し

平成 24 年度資料館と古民家園では、企画展や体験学習などさまざまな催しを行いました。その中の一部をご紹介します。

1. 企画展 新収蔵品展



展示風景

歴史民俗資料館では、市内・市外の方からご寄贈いただいた資料の一部を、年度末に展示紹介しています。今年は3月17日（日）から4月14日（日）まで開催する予定です。

2. 体験事業



餅つき

資料館で開催している体験学習のうち、その大半が、地域で食べられていた食に関する事業です。12月16日（土）には、「もちつきと鏡もち作り」を開催しました。参加者は、杵をもってかけ声にあわせながら楽しそうにおもちをついていました。

平成 24 年度 企画展・ミニ企画展

展 示 名	期 間	場 所
新収蔵品展	3/10（火）～4/15（日）	資料館
ミニ企画展 端午の節句	4/8（日）～5/6（日）	資料館・古民家園
ミニ企画展 七夕飾り	7/1（日）～7/7（土）	資料館
企画展 多摩地区と我が家の戦争・戦後	7/10（火）～7/22（日）	資料館
企画展 立川の遺跡 2012	7/31（火）～9/2（日）	資料館
ミニ企画展 はきもの～足元の移り変わり～	9/25（火）～10/28（日）	資料館
写真展 立川駅の移り変わり	9/15（土）～10/14（日）	資料館
企画展 立川の文化財	11/1（木）～11/30（金）	資料館
ミニ企画展 電話～通信機器の移り変わり～	12/8（土）～1/11（金）	資料館
ミニ企画展 桃の節句	2/2（土）～3/3（日）	資料館・古民家園
企画展 新収蔵品展	3/17（日）～4/14（日）	資料館

平成24年度 体験学習

場所	講座名	実施日	人数
歴史民俗資料館	草もち作り	4/21 (土)	25
	手打ちそば作り	6/16 (土)	31
	ふかし饅頭とすいとん作り	7/21 (土)	26
	夏休み工作体験 竹細工作り	8/18 (土)	13
	手打ちうどんと十五夜飾り	9/29 (土)	24
	正しい拓本の取り方を学びませんか	10/13 (日)	9
	手打ちそば作り	11/17 (土)	25
	お餅つきと鏡餅作り	12/16 (日)	28
	手打ちうどん作り	2/16 (土)	28
古民家園	通年体験 陸稲の種まき・サツマイモ植え付け	5/13 (日)	22
	通年体験 麦の刈り取り	6/17 (日)	19
	通年体験 麦の脱穀	7/1 (日)	14
	通年体験 麦わら細工作り	8/19 (日)	23
	通年体験 手打ちうどんと十五夜飾り	9/30 (日)	17
	通年体験 サツマイモの収穫	10/14 (日)	18
	通年体験 もちつき	10/28 (日)	21
	通年体験 説明会・麦まき	11/25 (日)	13
	通年体験 正月飾り	12/20 (木)	6
	繭玉飾りと七草粥	1/13 (日)	17
	麦ふみと竹ぼうき作り	2/17 (日)	19
	じゃがいも植付け・麦作一番耕	3/17 (日)	13
市内	多摩川の自然観察	5/27 (日)	17
	市内文化財散歩 立川の古村を歩く	10/28 (日)	19

古民家園茶点事業

回数	実施日	人数	回数	実施日	人数
1	4/28 (土)	8	7	10/27 (土)	12
2	5/4 (金)	20	8	11/13 (火)	15
3	5/22 (火)	13	9	11/25 (日)	15
4	9/23 (日)	5	10	3/12 (火)	11
5	9/29 (土)	32	11	3/24 (日)	8
6	10/17 (水)	10			

講 演 会

名称	会場	実施日	人数
講演会 役場の文書と砂川闘争	砂川学習館	1/13（日）	65

利用状況（平成21～24年度） ※累計は開館・開園より数えた人数です

歴史民俗資料館

	開 館 日 数	大人		子供		合計	1 日 平 均	団体利用	
		男	女	男	女			件数	人数
21 年度	307	4,328	2,957	984	795	9,064	29.5	37	1,582
22 年度	301	4,131	2,067	1,144	855	8,197	26.8	66	1,246
23 年度	307	4,608	2,467	1,322	1,177	9,574	31.2	35	1,861
24 年度	301	4,581	3,144	1,147	1,109	9,981	33.2	84	2,081
累計※	8,227	97,245	63,972	48,058	41,761	251,036	30.5	1,435	58,901

川越道緑地古民家園

	開 館 日 数	大人		子供		合計	1 日 平 均	団体利用	
		男	女	男	女			件数	人数
21 年度	307	3,402	3,013	864	827	8,125	26.4	33	898
22 年度	306	3,859	3,473	846	755	8,933	29.3	37	2,393
23 年度	307	3,571	3,055	1,004	927	8,557	27.8	45	1,963
24 年度	306	3,237	2,804	1,098	1,138	8,277	27.0	56	1,785
累計※	5,954	78,651	72,591	26,474	24,329	202,045	27.8	770	31,509

～新刊紹介～

「鈴木平九郎 公私日記」

第3巻（改訂版）



「公私日記」改訂版・第3巻を刊行いたしました。昨年度出版した第2巻の続巻で、弘化3年（1846）から嘉永2年（1849）までを収録しています。

今回の収録分には、柴崎村の様子はもちろんのこと、弘化3年に東インド艦隊の艦船が浦賀沖に現れた事件など、開国前夜の様子が垣間見える記事も載っており、とても興味深い内容となっております。○公私日記改訂版・第3巻 B5判 377ページ ￥2,000

寄贈資料紹介 立川養豚場写真

かつて、昭和記念公園の一部は「子安農園立川養豚場」でした。立川といえば飛行場が有名ですが、立川飛行場の西隣には養豚場があったのです。

時は大正8年（1919）、当時の西立川駅周辺は江戸時代の柴崎村（立川市の南域）で年寄の役についていた家柄である井上家の土地でした。その土地を、三菱財閥の創始者・岩崎弥太郎^{おい いわさきてる や}の甥である岩崎輝弥^{こ やす}が買い取り、横浜の子安農園の分園として移ってきたのです。総面積は約6万坪、かなりの広さです。場内では養豚の他、鶏や^{うさぎ} 兎なども飼育していました。



立川養豚場正門

この写真は、立川養豚場の正門を写した写真です。

正門は現在の西立川駅から北へ約150mほど行った場所にありました。この養豚場ができた頃は、青梅線立川一中神間に駅はまだありませんでしたが、当時私鉄だった青梅鉄道に働きかけ、西立川駅ができました。



養豚場内風景

この写真は、敷地内を走っていたトロッコの線路です。敷地内には、飼料用収穫物運搬用のトロッコが敷かれていたのです。この写真と同時に寄贈いただいた写真の中には、養豚場で働いていた人の子どもたちがトロッコに乗っているものも残っています。

そんなのどかな状景が浮かび上がる一方で、立川養豚場は当時の養豚場施設としては最先端の知識と技術も有していました。論文や研究叢書^{そうしよ}の発行など養豚知識の普及に努め、場内で働いている牧夫たちも高い専門知識をもっていたと言われています。



豚の輸送風景

前ページの写真は、大阪府立農学校へ運ぶ直前に撮影したものだと思います。大阪府立農学校は、現在の大阪府立大学農学部です。立川飛行場は、昭和6年に民間航空機が羽田に移るまで、民間機も頻繁に往来していました。立川—大阪間の定期輸送を始めたのは朝日新聞社で、巨大な格納庫も所有していました。朝日新聞社が郵便物輸送から、旅客・貨物輸送も始めたのは昭和3年ですので、この写真は昭和3年以降に撮られたものと推測できます。

豚は、大正3年に開園した横浜時代から数えると、イギリスからヨークシャー種とバークシャー種の原種豚約100頭を輸入し、約8,000頭の豚を生産配布しました。これらの豚の飼料になったものは数多く挙げられますが、立川養豚場では、米糠や麦糠、^{ぬか}糠（小麦を粉にひいたあとに残る皮のこと）や玉蜀黍などを配合した基礎飼料^{しりょう}の他、貯蔵に耐えられる飼料や場内で生産可能な根菜類を飼料としていたようです。その中でも「ボンキン」

という飼料用のカボチャは、栽培も簡単で栄養も高く、さらに消化もよかったため、よく栽培されました。



豚の飼料 ボンキン

立川養豚場は昭和16年（1941）、立川飛行場の拡大に伴い土地を買収されたため、神奈川県高座郡大和村鶴間に移転します。その後、昭和29年小田急に売却するまで豚を飼育し続けました。

立川養豚場跡地には、陸軍航空廠立川支廠^{ししやう}が移ってきます。敗戦後は、米軍基地を経て、現在は昭和記念公園となり、憩いの場として来園者に親しまれています。今回ご紹介した立川養豚場の写真は、今年3月に養豚場関係者のご親族の方によりご寄贈いただきました。末筆ながらこの場にて感謝申し上げます。

資料館だより 第17号

発行日 2013年（平成25年）4月1日

編集・発行 立川市歴史民俗資料館

（立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係）

住所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号

TEL:042-525-0860 FAX:042-525-1236